

U12 TO サポーター マニュアル

2024 年 4 月

(公財) 日本バスケットボール協会 TO 委員会

1. 「TO サポーター」とは

- 「TO サポーター」とは、U12 のゲームで、TO を行う子どもたちをサポートする大人のことです。
- TO は、審判と一緒に一つのチームとなって、ゲームを公正かつ円滑にすすめる、とても大切な役割を担っています。子どもたちが誇りと責任感をもって TO の仕事に取り組めるよう、サポートをお願いします。
- U12 のルールは、一般のルールと異なるところが多くあります。【付録】を参照してください。

2. ゲーム中のサポート

- 「U12 TO マニュアル ハンドブック」(JBA TO 委員会) の内容に沿ってサポートしてください。
- ゲーム中、スコアラーズテーブルの後ろから子供たちを見守り、必要に応じて声をかけてください。TO のやり方を教えるだけでなく、うまくできたときには「グッジョブ!」、間違えたときには「大丈夫だよ。落ちついてやろう!」など、はげましたり、不安を取り除いたりする声かけも大切です。
- ミスやトラブルなど、困ったことが起こったときは、審判を呼んで状況を説明し、指示を仰いでください。ただし、審判を呼ぶのは、ゲームが止まっているとき(ゲームクロックが止まって、ボールがデッドのとき)に限ります。プレーしている最中にブザーを鳴らして審判を呼んではいけません。

3. サポートのポイント

- 以下のポイントを押さえながら、サポートしてください。ただし、経験の少ない子どもに「あれもこれも」と伝えすぎても、子どもたちを混乱させるだけです。子どもたちの様子を見ながら、できることを少しずつ増やしていってあげてください。
- スコアシートの記入や機械の操作などが一通りできるようになったら、TO 同士のコミュニケーション(声の掛け合いによる連携)にも、少しずつ取り組ませてください。最初は、TO サポーターも一緒に声出しをしてあげてください。なお、「声出し」は、TO 間のコミュニケーションが目的です。審判、選手・コーチ、観客に伝えるためのものではありません。

(1) スコアラー

- スコアシートに得点やファウルなどを正しく記入しているか。
- 審判がファウルのレポートをするとき、アイコンタクトして、サムアップ(O Kサイン)ができていないか。

- タイムアウトや交代の合図を正しく行っているか。

審判の笛のあと（ファウルときは審判のレポートのあと）速やかにブザーとジェスチャーだけで合図する。
合図するときに、立ち上がったたり声を出したりしない。

- ジャンプボールシチュエーションのとき、アローの反転を正しく行っているか。

ジャンプボールシチュエーションになったら、反転準備のためにアローに手を置く。（高く掲げない。）スローインされたボールがコート内のプレーヤーに正当に触れたら、アローを反転する。

【注意】

- T Oサポーターは、スコアシートのランニングスコアとスコアボードの表示が一致しているか、ファウルの記録と表示が一致しているか、ときどき確認してください。
- ベンチからのタイムアウトや交代の請求に注意し、スコアラが気付いてなければ、すぐに知らせあげてください。
- 2 Q 終了後に、スコアラが両チームのマネージャーと、前半のファウル回数、得点、後半の最初にスローインするチームを確認するときは、立ち会ってください。

(2) アシスタントスコアラ

- 個人ファウルとチームファウルの個数を、正しく表示しているか。

チームファウルの個数 ⇒ 個人ファウルの個数の順に示す。
個人ファウルは、①ベンチに向けて②正面に向けて③再びベンチに向けて、の3段階で行う。
表示するときに、立ち上がったたり声を出したりはしない。また、表示ふだは上下に振ったり回したりしない。

- チームファウルペナルティーの赤色の標識を、正しく表示しているか。

4 個目のチームファウルのあと、スローインするプレーヤーまたはフリースローするプレーヤーにボールが与えられたときに赤色の標識を表示する。このとき数字（チームファウルの個数）は表示しない。ただし、数字を消せない機材の場合は、表示しても差し支えない。
表示するときに、声を出したりブザーを鳴らしたりはしない。ただし、5 個目のファウルのあと、審判がチームファウルペナルティーに気付かずにスローインさせようとしているときには、ブザーを鳴らして伝える。

- 得点が入ったときにスコアボードの得点をコールしているか。

スコアボードに表示される得点を「23 対 45」のようにコールする。（スコアラはそのコールを聞いてランニングスコアと表示された得点と一致していることを確認する。）
コールは、スコアシートのランニングスコアの欄に合わせて、常に「チーム A ⇒ チーム B」の順に行う。
タイマーがスコアボードの操作を行う場合も、このコールはアシスタントスコアラが行う。

(3) タイマー

- スタートするとき、「スタート！」とコールして、「手を握る」⇒「手を下ろす」の2段階の動作をしているか。
- ストップのとき、「ストップ！」とコールして、その瞬間に手を上げているか。

- 2 個のフリースローのとき、最後の一球の前に手を上げているか。
- タイムアウト（45 秒）を計測しているか。
- タイマーがスコアボードの操作をする場合、得点入力よりスタート／ストップの操作を優先して行っているか。

【注意】

- フリースロー以外でも、交代があるときなど、少し間があるときは、一度上げた手を下ろしても構いません。ただし、次にゲームが再開するときは、手を上げておきます。

(4) ショットクロックオペレーター

- ボールのコントロールの始まりを見極めてスタートしているか。
- スタート／ストップ時の声出しと目視による確認を行っているか。
- 審判が笛を鳴らしたときは一度ストップし、シグナルを確認して継続／リセットの操作をしているか。
- フリースローのときと、24 秒リセットのスローインのとき、非表示にしているか。
- ボールがリングに触れた瞬間に非表示にしているか。
- 各 Q、各 OT の開始時に 24 を表示しているか。
- 各 Q、各 OT の終わりに、正しく非表示にしているか。
- 左側のチームのチームファウルの表示を行う場合、正しいタイミングで行っているか。

【注意】

- 審判の笛でストップしたあとは、残りの時間を継続する場合と、24 秒または 14 秒にリセットする場合がありますが、継続すべき場面で誤ってリセットしてしまうと、ゲームを中断してショットクロックの修正をしなければなりません。このような事態を引き起こさないために、ショットクロックオペレーターは「審判の笛が鳴ったときは、必ず一度ストップし、審判のシグナルを確認して継続かリセットかを判断する」ことを習慣化しておくことが大切です。よい習慣が U12 の段階から身につくよう、サポートをお願いします。
- ボールのコントロールの始まり・終わりの見極めは、大人にとっても難しい技術です。ショットクロックオペレーターが誤ってリセットしてしまい、審判から修正の指示があったときには、残り何秒だったかの情報が必要です。TO サポーターは、ショットクロックの残りの秒数に注意を払いながらゲームを見守るようにしてください。
- ゲームクロックがスタート／ストップするときは、「ジャンプボール後のスタート」「最後のフリースローが不成功でボールがリングに当たったあとのスタート」を除き、ショットクロックも同時にスタート／ストップします。タイマーとショットクロックオペレーターが同時に「スタート！」「ストップ！」とコールしてそれぞれのクロックを操作することを目指させてください。

【付録】 一般と U12 の相違点

担当	項目	一般	U12
スコアラー	スコアシート	・4 枚 1 組複写式	・1 枚もの。様式は一般用と異なる。
	メンバーリスト	・キャプテンは(CAP)と記入。	キャプテンの規定はない。
	出場の記録	・スターターの 5 人は、コーチがスコアシートの Player-in の枠に×を記入してサインする。その後、スコアラ－が×に○をつける。 ・途中出場は、Player-in の枠に×を記入する。	・クォーターごとに出場を記録する欄がある。各 Q のはじめに、スコアラ－が出場するプレーヤーの番号を見て、/を記入する。コーチのサインは不要。 ・途中出場は、\を記入する。
	コーチに記録されるファウル	・U15 では C、B の他に M (マンツーマンペナルティ) がある。 ・M が 2 回記録されると、ヘッドコーチは失格退場。	・C、B の他に M (マンツーマンペナルティ) がある。 ・M が 3 回記録されると、ヘッドコーチは失格退場。
	ランニングスコア	・1 点、2 点、3 点がある。 ・自殺点は相手チームキャプテンの得点として記録。	・3 点はない。(3 点を採用する大会もある) ・自殺点は番号の代わりに▲を記入して記録。
	交代	・交代は自由に行える。 ・出場時間の制限はない。	・第 3Q までは、インターバルのみ交代できる。 ・「第 3Q までに 10 人以上出場」「第 1Q～第 3Q 連続出場は不可」などの制限がある。
タイムマー	競技時間	・10 分×4Q。OT5 分。「引き分け」なし。 (U15 は、8 分×4Q、OT3 分)	・6 分×4Q。「引き分け」もあり。延長を行う場合は 1 回 3 分。
	【最後の 2 分】 (第 4Q、OT の最後の 2 分)	・スローインファウルが適用される。 ・ゴールの後ゲームクロックが止まる。 ・ゴールの後にプレーヤーは交代できる。 ・タイムアウト後のスローインの位置を選択できる。	・スローインファウルが適用される。 ・ゴールの後にゲームクロックを止める規定はない。プレーヤーの交代もできない。 ・タイムアウト後のスローインの位置を選択する規定はない。
	タイムアウト	・前半 2 回、後半 3 回。(【最後の 2 分】は 2 回まで。) OT 各 1 回。 ・スコアシートには経過時間で記録する。 ・1 回 60 秒。50 秒と 60 秒経過時にブザー。	・各 Q、各 OT に 1 回ずつ。 ・スコアシートには各 Q の枠に×を記入して記録する。 ・1 回 45 秒。35 秒と 45 秒経過時にブザー。
	インターバル	・1・2Q 間、3・4Q 間、各 OT 間は 2 分。 ・終了 30 秒前と終了時にブザー。	・1・2Q 間、3・4Q 間は 1 分、各 OT 間は 2 分。 ・1 分のインターバルは終了時にブザー。(30 秒前のブザーなし。) 2 分のインターバルは、1 分前と終了時にブザー。
	ハーフタイム	・10 分。ただし主催者の考えにより変更可。 ・終了 3 分前、1 分 30 秒前、終了時にブザー。	・5 分。 ・終了 3 分前、1 分前、終了時にブザー。

※ 「ゴール」とは、ゲームクロックが動いていて、ボールがライブの状態でのショットのゴールを指す。

担当	項目	一般	U12
ショットクロックオペレーター	14 秒リセット	①ショットのボールがリングに触れたあと、攻撃側がボールコントロールしたとき。 ②ボールがリングに挟まったジャンプボールシチュエーションで、攻撃側にボールが与えられるとき。 ③ショットクロック 13 秒以下で、相手チームのファウルやバイオレーションの後にフロントコートのアウトからスローインするとき。	①ショットのボールがリングに触れたあと、攻撃側がボールコントロールしたとき。 ②ボールがリングに挟まったジャンプボールシチュエーションで、攻撃側にボールが与えられるとき。 ★左の③のケースは 24 秒リセット。
	ショットクロック継続	①正当なディフェンスによるアウトオブバウンズ。 ②ジャンプボールシチュエーションで、攻撃側にボールが与えられるとき。 ③自己責任（自チームの負傷者の保護、自チームのテクニカルファウル）。 ④ショットクロック 14 秒以上で、相手チームのファウルやバイオレーション（キックボールなど）の後にフロントコートのアウトからスローインするとき。	①正当なディフェンスによるアウトオブバウンズ。 ②ジャンプボールシチュエーションで、攻撃側にボールが与えられるとき。 ③自己責任（自チームの負傷者の保護、自チームのテクニカルファウル）。 ★左の④のケースは 24 秒リセット。
	スローインライン	・アンスポ、DQのフリースローのあとのスローインはスローインラインから行う（SCは14秒リセット）。	・スローインラインはない。アンスポ、DQのあとはセンターラインの延長から（SCは24秒リセット）。

<改訂履歴>

2023年4月 初版

2024年4月 改訂

